

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、トキと自然の学習館は臨時休館しています。

この時期、トキは最も動きが活発で、皆さんにその姿をご覧いただけなくとも残念です。

今回の学習館便りでは、休館中の出来事をご紹介します！

■保護色で隠れみの術

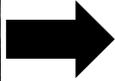
「トキみ〜て」で一般公開しているオス5羽の様子はというと…

羽がより一層黒くなりました！白い部分の方が少ないくらいです。

休館中も一生懸命、羽の色付け行動をしていました。

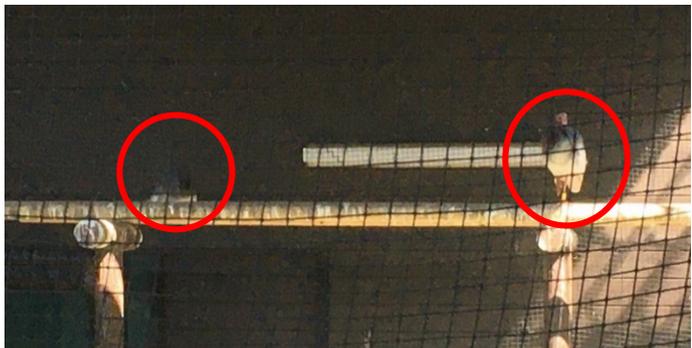


1月に撮影した写真と比べると、同じ個体とは思えないほどです。



白い羽を黒くする理由の一つに考えられている、『天敵から身を守るための保護色』。それを体感する場面に出くわしました。

下の写真をご覧ください。赤い○で囲った場所に、止まり木で休む2羽がいます。



皆さん左の○の中にトキがいるのがわかりますか？止まり木に座ると背景の壁と同化して見失ってしまうほどです！これぞ羽色の変化による隠れ身の術！開館したら皆さんも5羽のトキを確認できるかチャレンジしてみてください。

■今季初産卵

長岡市で飼育しているつがいは、3月中旬から交尾が確認されるようになり、21日に11歳のオスと10歳のメスのつがいから卵が生まれました。



順調にいけば来月下旬にはふ化する予定です。

つがいは一般公開していませんが、ライブカメラを通してトキと自然の学習館のモニターでご覧いただけます。

■飼育員も巣作り

産卵の時期を迎え、つがいはせっせと巣台に小枝や植物などの巣材を運び入れ大忙しです。



前回の学習館便りで飼育員が巣台を手作りしていることを紹介しましたが、実はこの巣材も飼育員が去年の秋から少しずつ採取をして準備してきたものなのです。

分散飼育センターの前にずらりと並ぶ巣材。小枝などの硬いものから、スズメカタビラやコケなどの柔らかいものまでさまざまな種類があります。



親鳥が十分に巣材を入れていない時は、飼育員が補充をしたり整えたりと、巣作りを手助け。まさに一心同体です。



今年は何羽のヒナが誕生するのか楽しみです。